

平成 27 年 5 月 20 日

平成 27 年度 「新入社員 意識調査」

足利銀行（頭取 松下 正直）のシンクタンクである「あしぎん総合研究所」（社長 伊沢正吉）は、「平成 27 年度新入社員意識調査」を行いましたので、その結果を別紙のとおり発表いたします。今回のポイントは下記のとおりです。

記

<ポイント>

- ◇ 新卒者の訪問企業数は「1~2 社」が 24 年度にこの設問を加えて以来最も多い回答となり、景気回復を受けて学生優位の「売り手市場」となった様子がみられた。
- ◇ 出世については、「平社員のままでいい」「係長ぐらい」が増加。一方、「課長」「部長」「役員以上」と出世を望む新入社員は減少した。特に男性でこの傾向が顕著で、男性の“草食化”が進んでいる。
- ◇ 女性活躍推進の機運が高まる中、「いずれは家庭に入りたい」という女性はほぼ昨年度並み。3 割近くがこれまで同様“専業主婦”を希望しており、新入社員の意識変革は入社後にかかっているという現状がわかった。

1. 会社を選んだ基準

「自分が働きたい業界・業種」が 65.9%と圧倒的に多く、次いで「通勤に便利など立地条件」30.8%、「会社・上司の雰囲気が良い」30.0%となった。男女別で男性が多いのは「休日が多い」「会社の業績がいい」「給料が多い」で、男性は女性に比べて条件重視の傾向にある。特に「休日が多い」を選んだ男性は 22 年度の調査開始以来最も多くなり、はじめて 2 割を超えた。

2. 働く目的

「収入を得ること」は少し減り 73.5%。次いで「自己の人間性の成長」44.2%、「社会の一員として社会へ貢献するため」35.6%の順でいずれも増加している。

3. 不安

「仕事についていけるか」が 70.5%と最も多い。景気回復への安心感からか「会社の業績の悪化」「思ったとおりの収入が得られるか」は減少した。

4. 勤務・転職等

「定年まで働きたい」が最も多く 52.5%。次いで「いずれは転職したい、してもよい」23.8%、「いずれは家庭に入りたい」13.8%の順で、例年と大きくは変わらない。

5. 出世

最も多いのは「課長・店長ぐらい」31.1%。次ぐ「平社員のままでいい」22.9%は男女ともに 2 年続けて増加しており、25 年度調査からは 5.3 ポイント増えた。

以上

本件に関するお問い合わせ先：(株)あしぎん総合研究所 野内（やない） TEL028-908-6126

平成 27 年度 「新入社員 意識調査」

<ポイント>

- ◇ 新卒者の訪問企業数は「1～2 社」が 24 年度にこの設問を加えて以来最も多い回答となり、景気回復を受けて学生優位の「売り手市場」となった様子がみられた。
- ◇ 出世については、「平社員のままでいい」「係長ぐらい」が増加。一方、「課長」「部長」「役員以上」と出世を望む新入社員は減少した。特に男性でこの傾向が顕著で、男性の“草食化”が進んでいる。
- ◇ 女性活躍推進の機運が高まる中、「いずれは家庭に入りたい」という女性はほぼ昨年度並み。3 割近くがこれまで同様“専業主婦”を希望しており、新入社員の意識変革は入社後にかかっているという現状がわかった。

1. 会社を選んだ基準

「自分が働きたい業界・業種」が 65.9%と圧倒的に多く、次いで「通勤に便利など立地条件」30.8%、「会社・上司の雰囲気が良い」30.0%となった。男女別で男性が多いのは「休日が多い」「会社の業績がいい」「給料が多い」で、男性は女性に比べて条件重視の傾向にある。特に「休日が多い」を選んだ男性は 22 年度の調査開始以来最も多くなり、はじめて 2 割を超えた。

2. 働く目的

「収入を得ること」は少し減り 73.5%。次いで「自己の人間性の成長」44.2%、「社会の一員として社会へ貢献するため」35.6%の順でいずれも増加している。

3. 不安

「仕事についていけるか」が 70.5%と最も多い。景気回復への安心感からか「会社の業績の悪化」「思ったとおりの収入が得られるか」は減少した。

4. 勤務・転職等

「定年まで働きたい」が最も多く 52.5%。次いで「いずれは転職したい、してもよい」23.8%、「いずれは家庭に入りたい」13.8%の順で、例年と大きくは変わらない。

5. 出世

最も多いのは「課長・店長ぐらい」31.1%。次ぐ「平社員のままでいい」22.9%は男女ともに 2 年続けて増加しており、25 年度調査からは 5.3 ポイント増えた。

<調査方法>

- (1) 調査期間 : 平成 27 年 3 月 24 日～4 月 22 日
- (2) 調査対象 : あしぎん新入社員セミナー受講生、新入社員向け出張研修受講生
(セミナー開催回数 栃木県 10 回、群馬県 1 回、埼玉県 1 回、出張研修 6 回)
- (3) 有効回答数 : 641 名 (回答率 99.8%)

内 訳 : 男性 336 名、女性 305 名

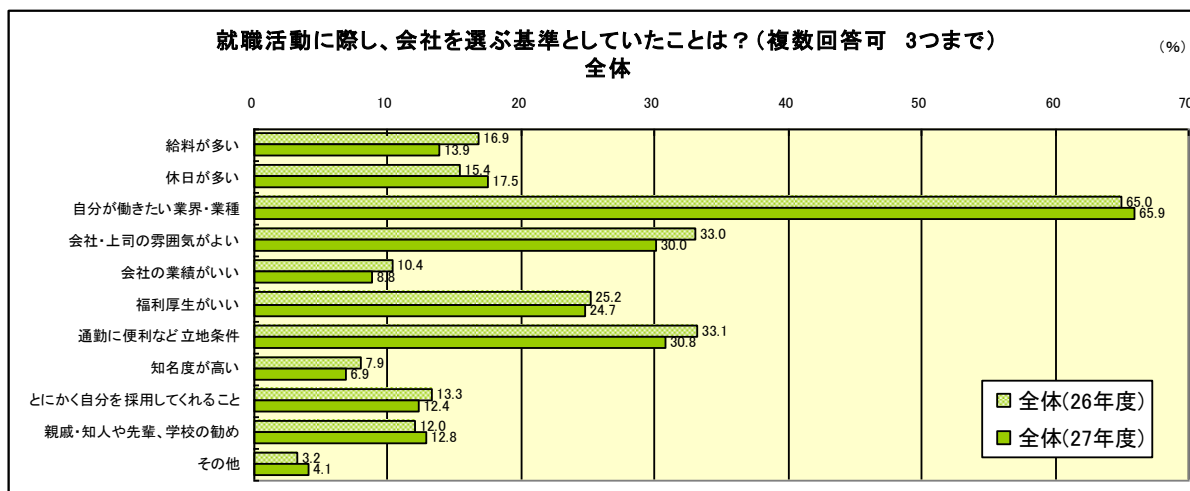
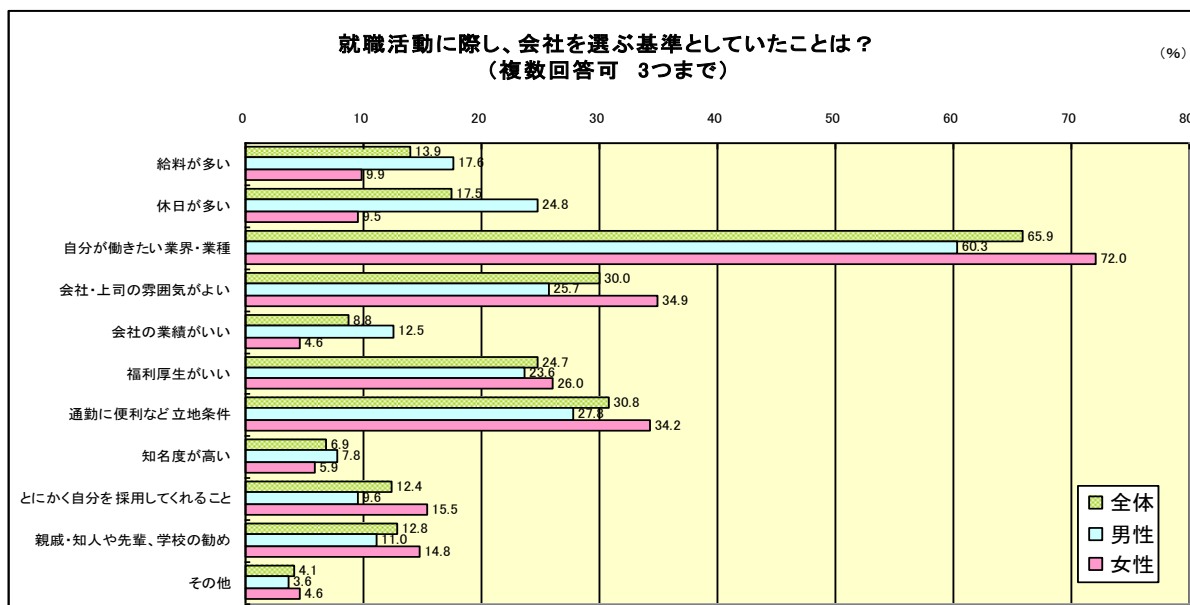
大学・大学院 40.2%、高専・短大・専門学校 15.4%

高校 27.8%、中途採用、その他 16.5%

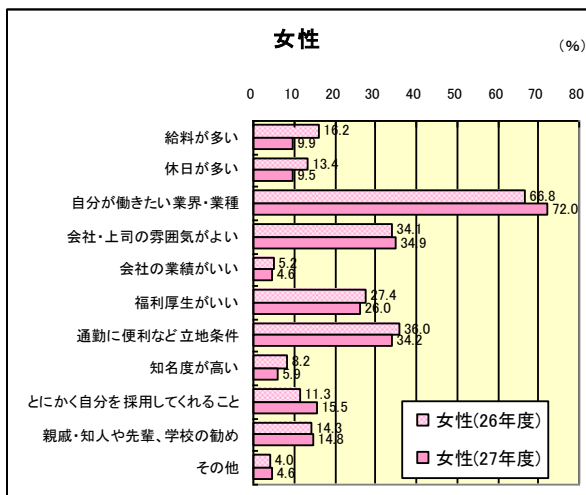
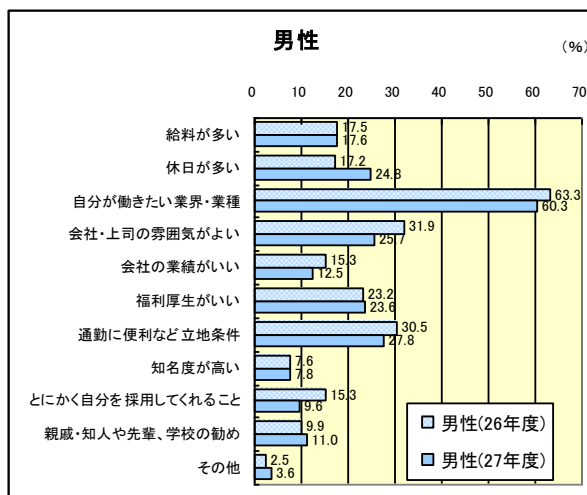
1. 就職活動に際し、会社を選ぶ基準としていたことは？

「自分が働きたい業界・業種」が 65.9%と圧倒的に多く、次いで「通勤に便利など立地条件」30.8%、「会社・上司の雰囲気が良い」30.0%となり、ベスト3は昨年度と変わらない。

男女別では「自分が働きたい業界・業種」「会社・上司の雰囲気がよい」で女性が多く、「休日が多い」「会社の業績がいい」「給料が多い」といった条件面で男性が多かった。

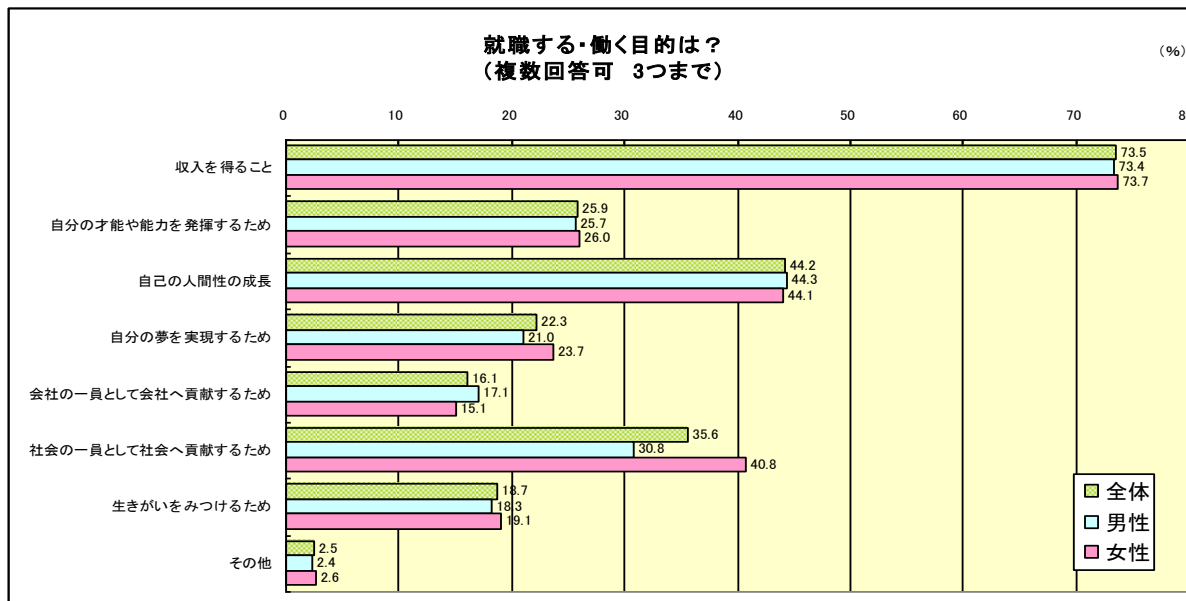


「休日が多い」を選んだ男性は 22 年度の調査開始以来、最も多くなりはじめて 2 割を超えた。(22 年 14.2%、23 年 9.6%、24 年 14.0%、25 年 11.4%、26 年 17.2%、27 年 24.8%)

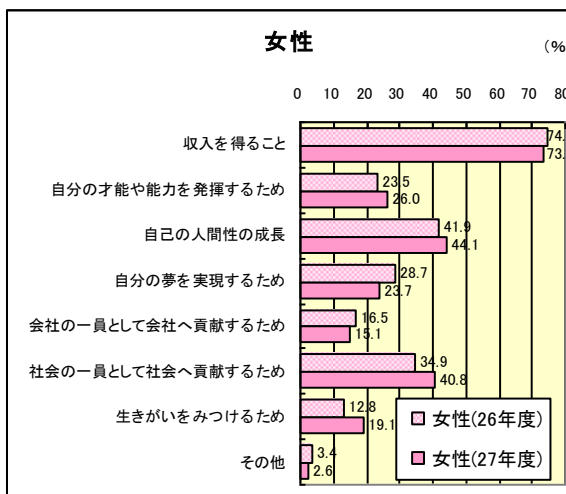
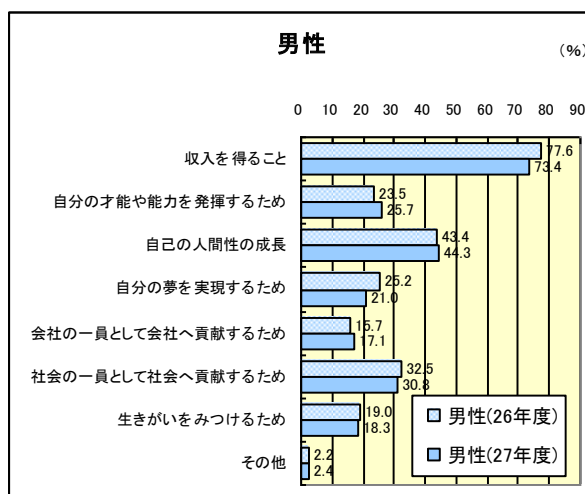
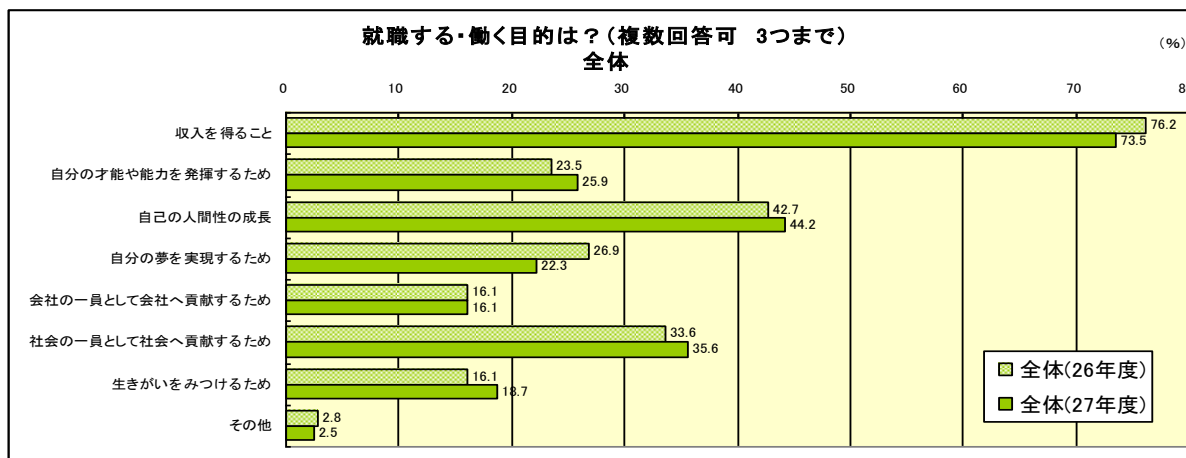


2. 就職する・働く目的は？

例年最も多い「収入を得ること」は少し減り 73.5%となった。次いで「自己の人間性の成長」44.2%、「社会の一員として社会へ貢献するため」35.6%の順となり、いずれも昨年を上回っている。

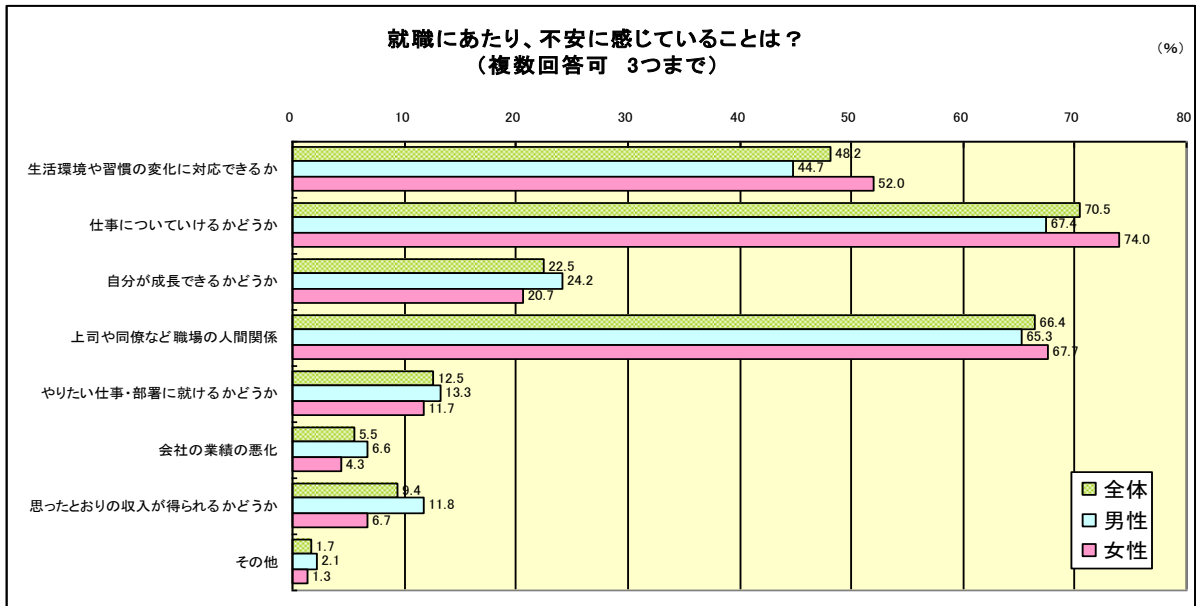


男女別で差がみられたのは「社会の一員として社会へ貢献するため」で、女性の回答が多かった。昨年度と比べ女性は「生きがい」「社会貢献」「能力発揮」「自己成長」が伸びており、働くことで輝きを増していく姿が想像される。

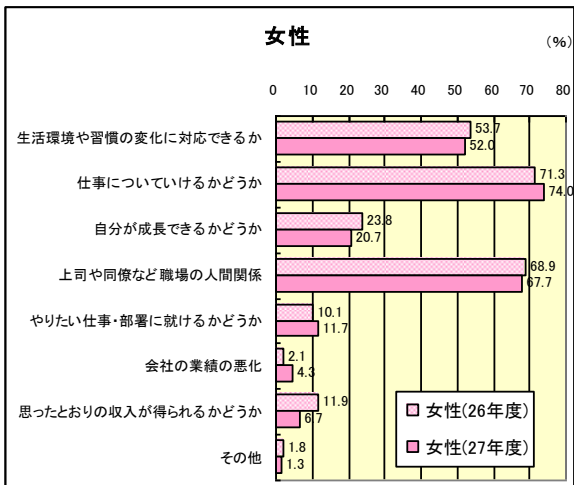
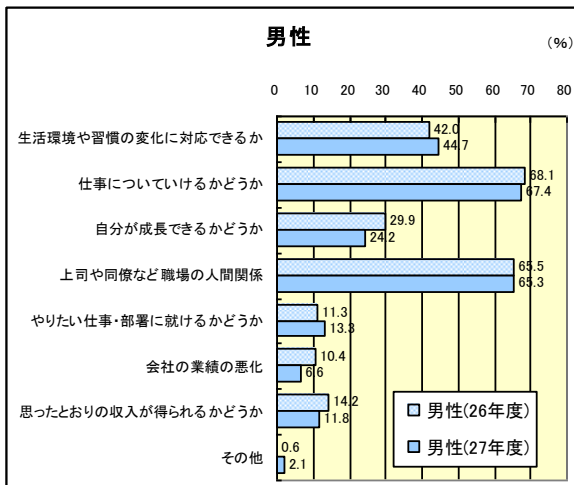
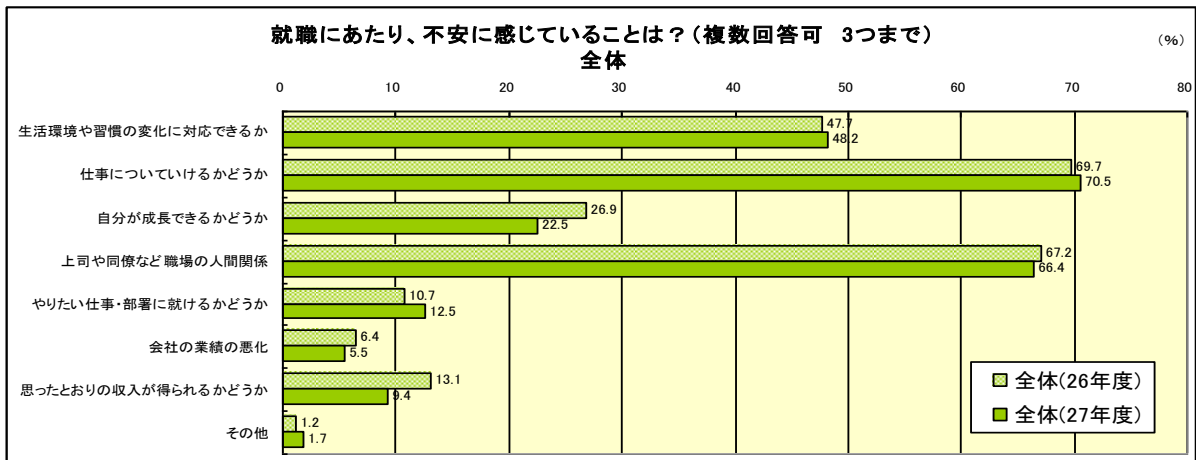


3. 就職にあたり、不安に感じていることは？

「仕事についていけるかどうか」が70.5%と最も多い。次いで多かったのは「上司や同僚など職場の人間関係」66.4%、「生活環境や習慣の変化に対応できるか」48.2%の順。景気回復への安心感からか「会社の業績の悪化」「思ったとおりの収入が得られるか」は減少した。

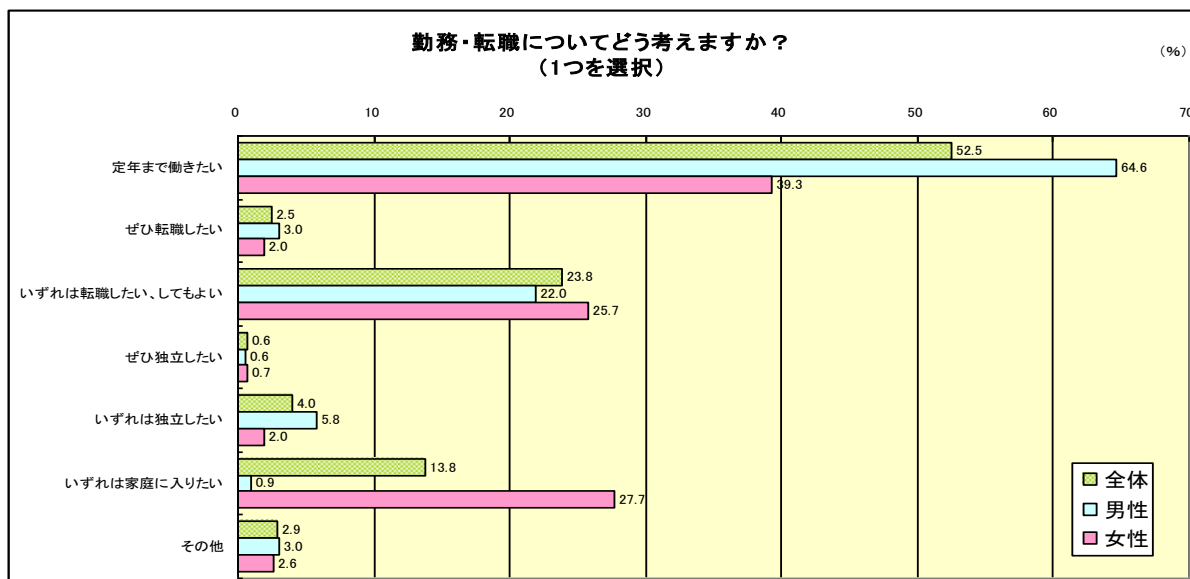


男女別で差がみられたのは「生活環境や習慣の変化に対応できるか」「仕事についていけるかどうか」で、両方とも女性の回答が多かった。「思ったとおりの収入が得られるかどうか」は男性の回答が多かった。

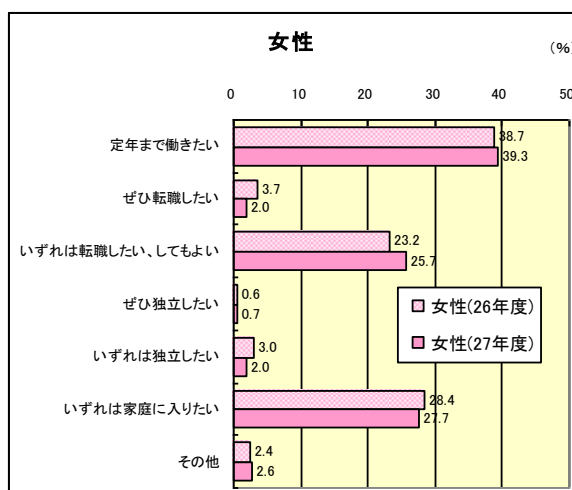
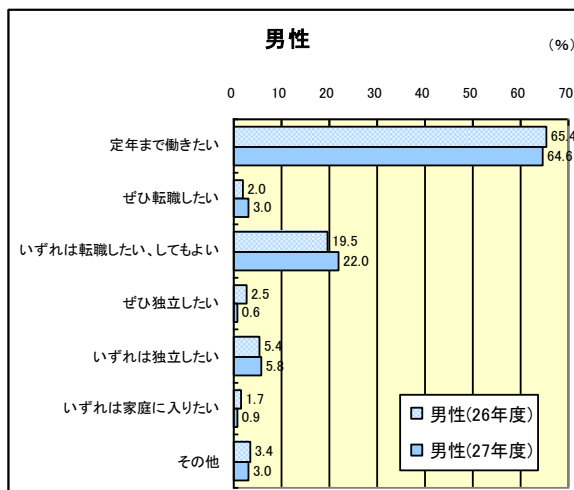
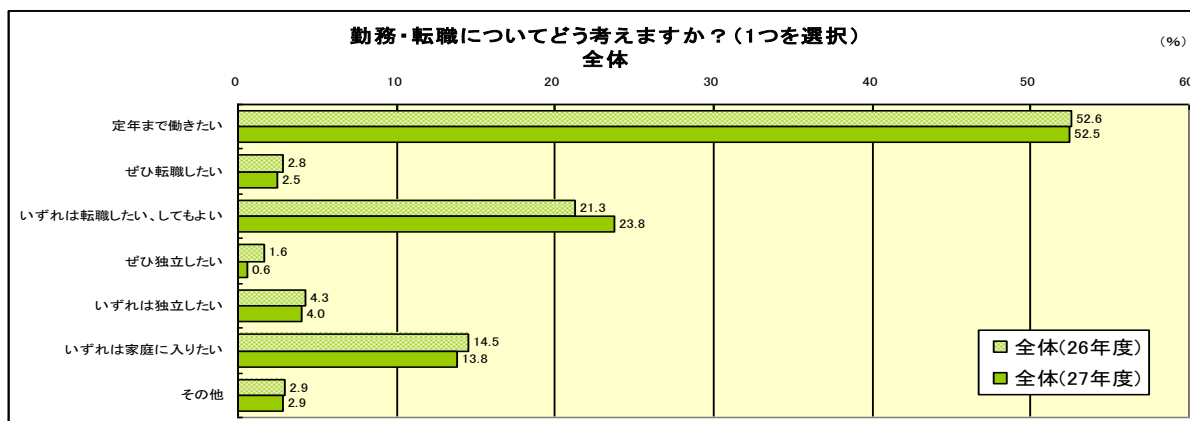


4. 勤務・転職等についてどう考えるか？

例年最も多い「定年まで働きたい」はほぼ昨年並みの52.5%。次いで「いずれは転職したい、してもよい」23.8%、「いずれは家庭に入りたい」13.8%の順で、全体に昨年度と同様の結果となった。

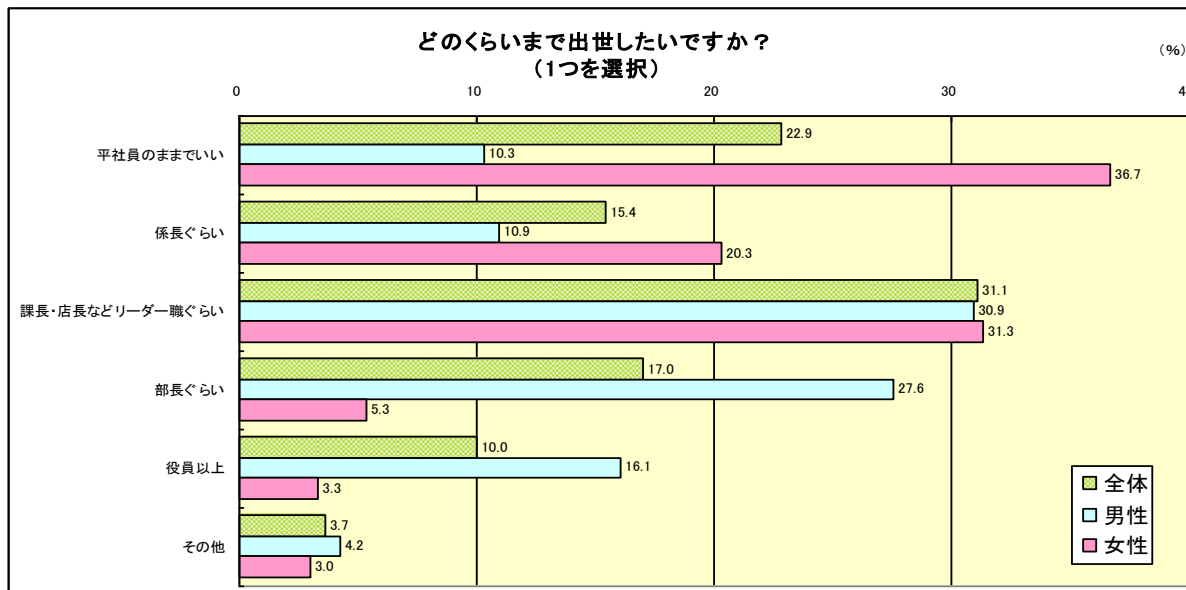


「いずれは家庭に入りたい」という女性は、わずかに減ったもののほぼ昨年度並み。3割近くがこれまで同様、専業主婦を希望している。

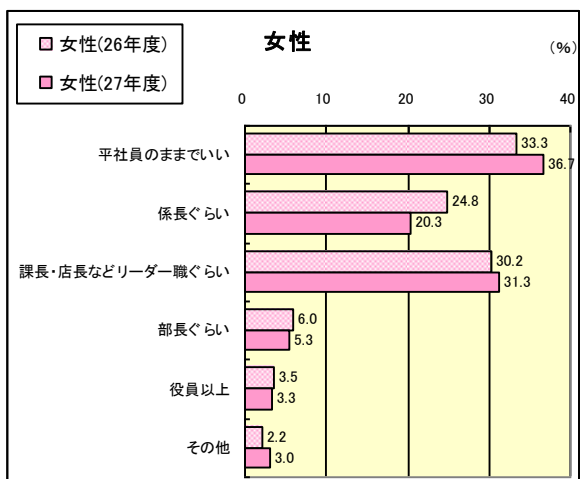
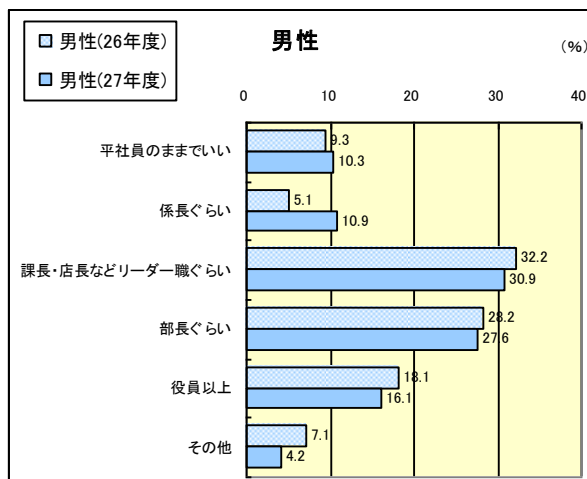
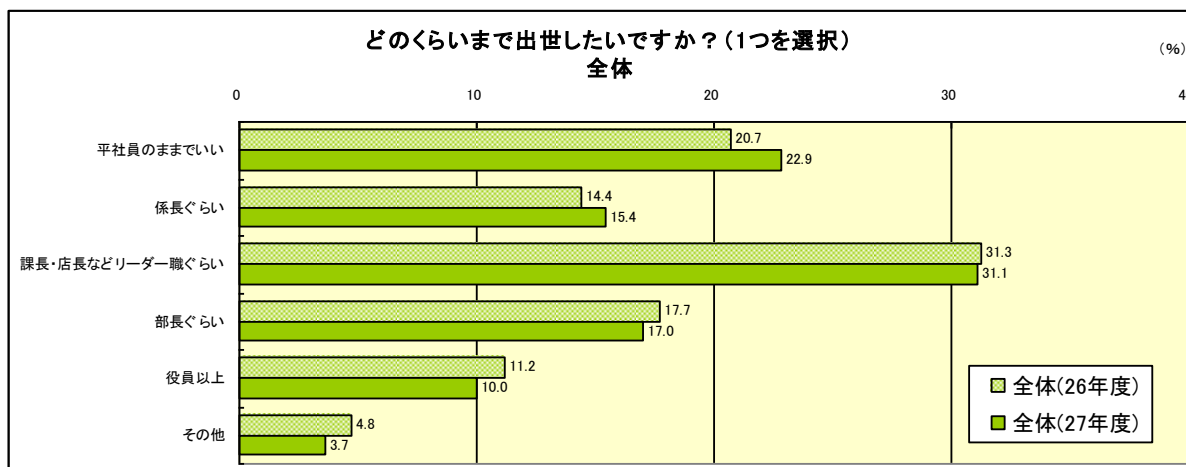


5. どのくらいまで出世したいか？

例年どおり男女差が大きい。より上席になるほど男性の回答が増え、課長・店長等のリーダー職以上を目指す男性は74.6%、女性は39.9%となった。「平社員のままでいい」という回答は男女ともに増加傾向にあり、25年度調査の17.6%から5.3ポイント増加している。

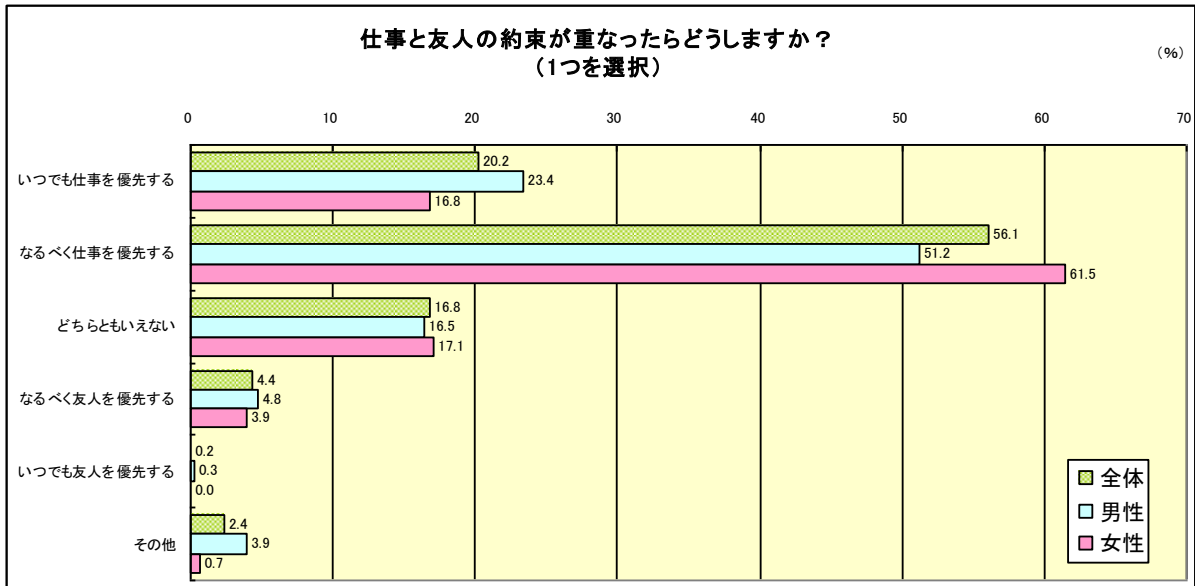


昨年度との比較では、「平社員のままでいい」「係長ぐらい」が増加している一方、「課長・店長などリーダー職ぐらい」「部長ぐらい」「役員以上」が減少。特に男性でこの傾向が強い。

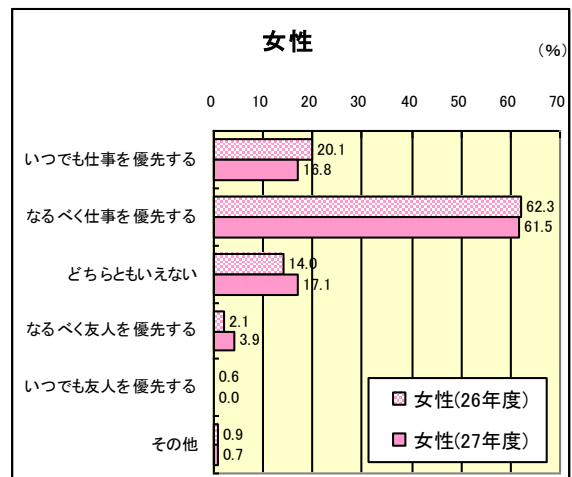
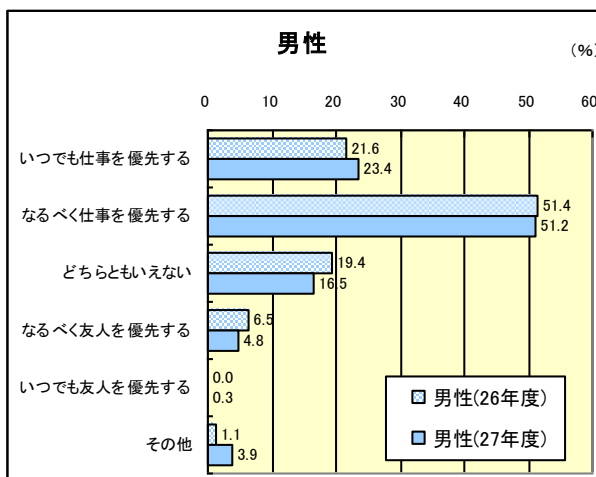
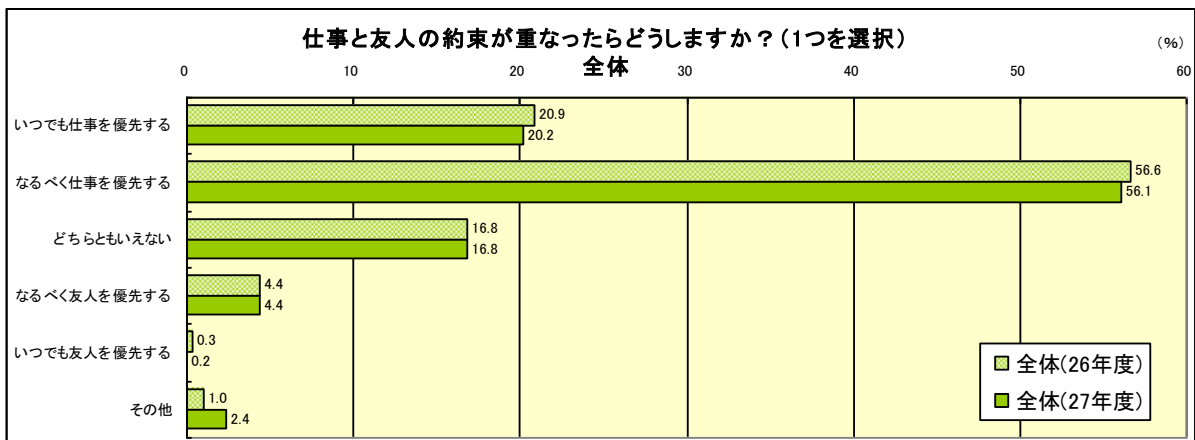


6. 仕事（残業など）と友人の約束（食事や飲み会など）が重なったらどうするか？

「なるべく仕事を優先する」が56.1%と最も多く、次いで「いつでも仕事を優先する」が20.2%となった。合計すると76.3%となり、友人の約束よりも「仕事を優先」派が多い。



男女別では「いつでも仕事を優先する」「なるべく仕事を優先する」の仕事優先派は女性78.3%、男性74.6%と女性が上回っている。ただし、「いつでも仕事を優先する」は男性の方が圧倒的に多い。



7. あなたが今、興味のあるもの、関心の高いものは何か？

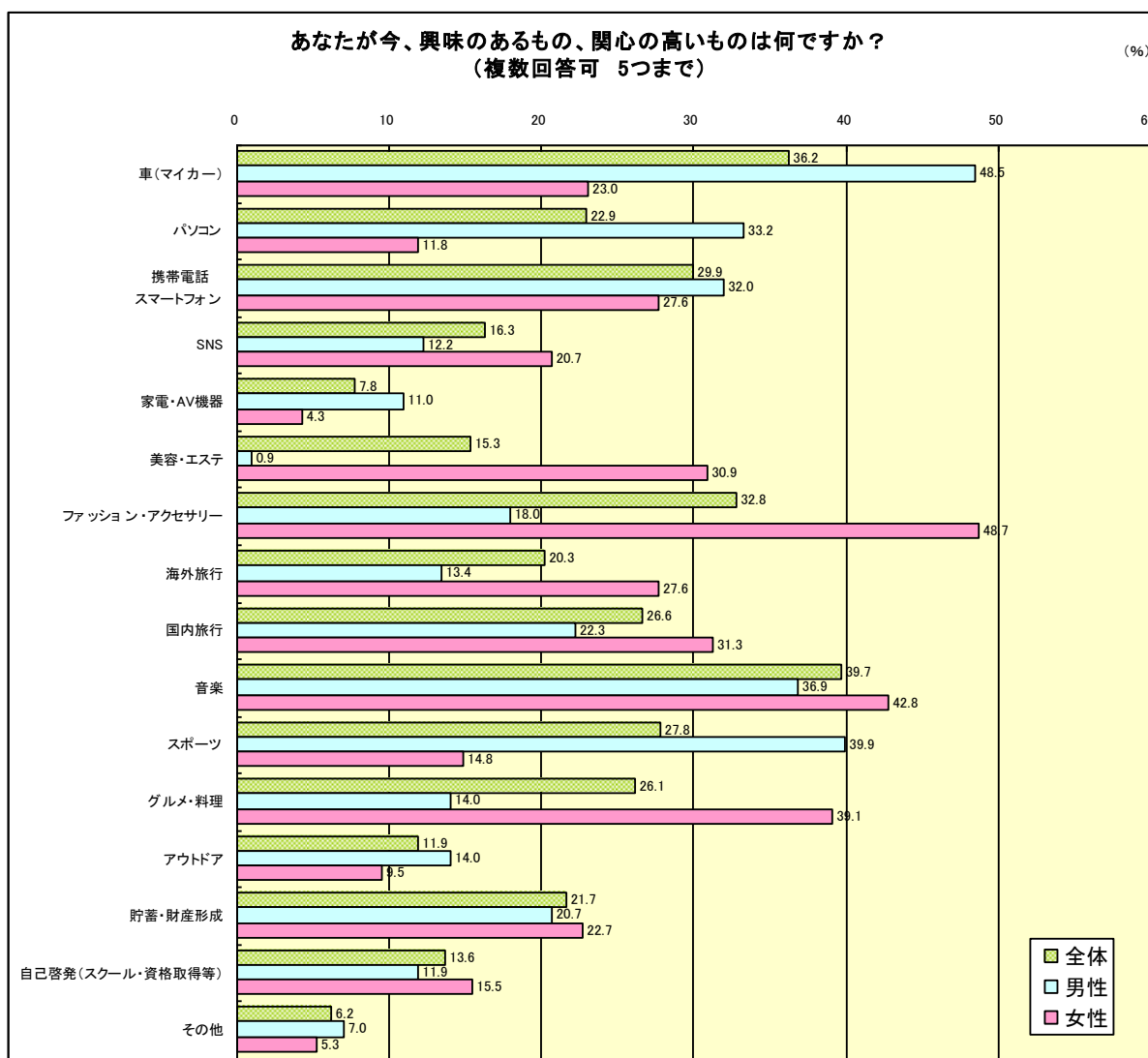
男性のベスト5は昨年度と変わらないが、1位の「車（マイカー）」が減り、「パソコン」「携帯電話・スマートフォン」が目立って増えた。女性は「グルメ・料理」が大きく伸びた一方、相次ぐテロや飛行機事故の影響か「海外旅行」がベスト5から落ち、22年度の調査開始以来はじめて「国内旅行」が「海外旅行」を越えた。

<男性>

①車（マイカー）	48.5%	（昨年度比－4.5）
②スポーツ	39.9%	（＋0.2）
③音楽	36.9%	（＋2.8）
④パソコン	33.2%	（＋5.0）
⑤携帯電話・スマートフォン	32.0%	（＋5.0）

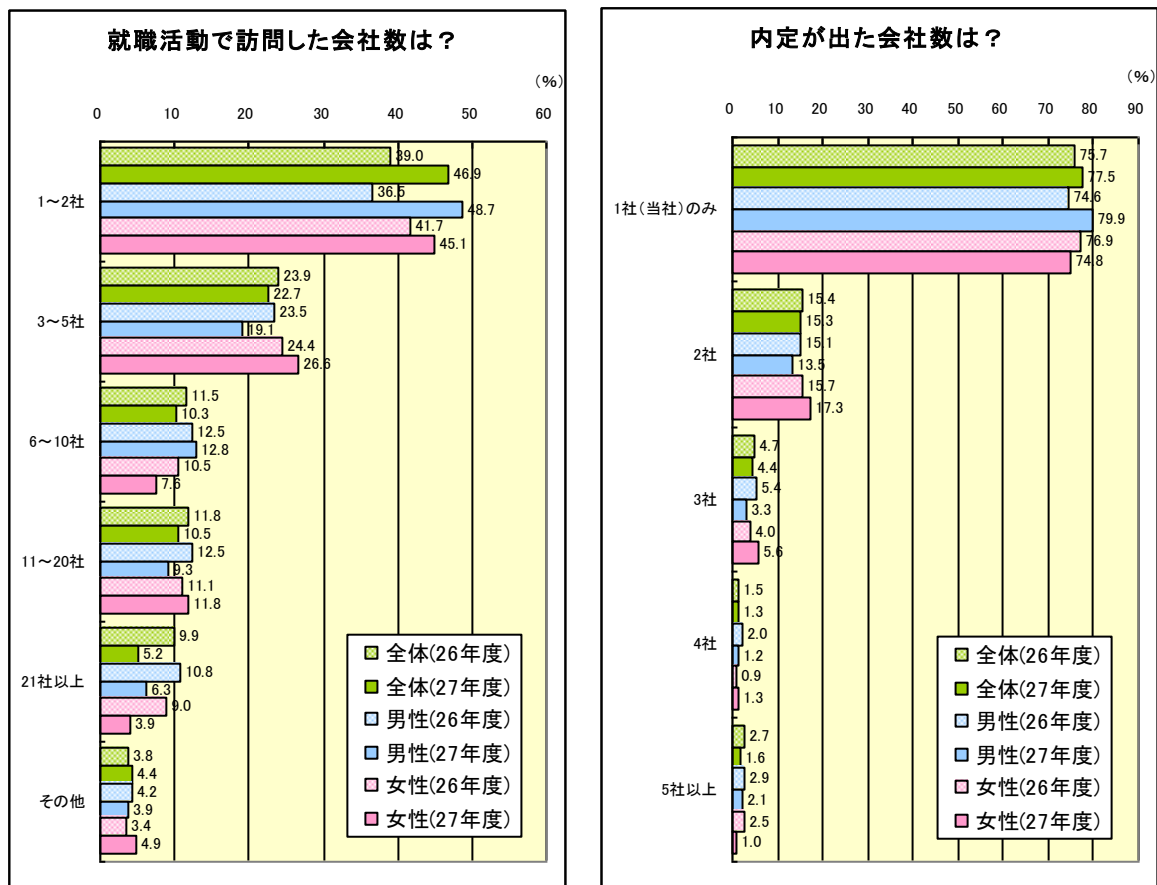
<女性>

①ファッション・アクセサリ	48.7%	（昨年度比＋3.3）
②音楽	42.8%	（＋0.7）
③グルメ・料理	39.1%	（＋6.8）
④国内旅行	31.3%	（＋3.6）
⑤美容・エステ	30.9%	（＋7.1）

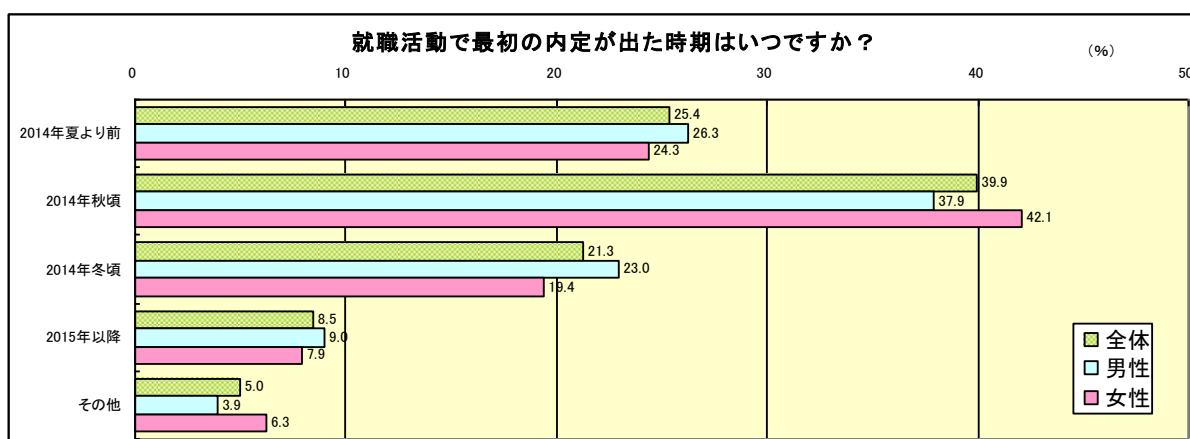


8. 新卒者の就職活動の状況について

新卒者の訪問企業数（会社説明会を含む）は、「1～2社」が最も多く46.9%で、昨年度より大きく増加した。24年度にこの設問を加えて以来最も多い回答となり、売り手市場となった様子が表れている。（24年37.5%、25年40.7%、26年39.0%、27年46.9%）



内定企業数は例年どおり「1社（当社のみ）」が圧倒的に多い。内定が最初に出た時期は、「2014年秋頃」が最も多く、次いで「2014年夏より前」「2014年冬頃」以降の順で、この傾向は例年どおりだった。



以上